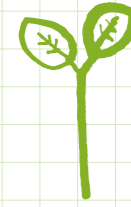




「花」と「みどり」に
彩られた人々に愛される
空間をつくります。



植栽で熊本らしい風景を再現 アミュプラザくまもと

活動時期 2019年8月～（2021年2月に竣工、2022年5月に賞の受賞）

活動場所 アミュプラザくまもと（熊本県熊本市春日）

JR九州熊本駅前に竣工した「アミュプラザくまもと」内の植栽材料の納品と壁面緑化の施工を行いました。植栽可能な種の検討をし、植物が室内で生育できるように自社養生施設である鹿屋GLABにて光順化を行いました。熊本ならではの自然の魅力を体現していること等が評価され、米国のInternational Living Future Institute ILFI主催の2022年「Stephen R Kellert Biophilic Design Award」と公益財団法人都市緑化機構主催の屋上・壁面緑化技術コンクール、壁面・特殊緑化部門、国土交通大臣賞を受賞しました。

活動の目的

「アミュプラザくまもと」は、都市部の開発が進み人と自然との関係が希薄になりつつある現代において、身近に自然を感じられる居場所を提供するために、熊本の阿蘇地方の自然を再現した空間の創出が求められました。植栽種には自生種を採用することが求められ、室内環境においてそれらの植物が生育を可能にする検討が求められました。

取り組み・成果

植栽種の選定にあたり、阿蘇地方へ植生調査を行いました。各樹種が室内の低照度下で生育可能か、鹿児島の子会社養生施設で順応実証試験を行い、導入種を決めていきました。また植物育成用LED照明の設置により屋内での在来種の生育を可能にしました。熊本らしい風景を体現でき、2022年バイオフィリックデザイン賞の大賞受賞に至りました。

今後の目標・課題

今後の屋内緑化において日本に自生する植物の採用が多くなると考えられます。今回のように自生種を多く含んだ室内緑化は、まだ事例が少ない中、屋内緑化における新たな可能性を見出すことができました。今後の植栽計画に反映していくと共に、継続的に植物の状態を観察することで室内緑化の発展と技術向上を目指します。

活動実施会社 株式会社グリーンバル



1 1階から7階までを貫通する屋内型の水と緑の立体庭園「ぼうけんの杜」



2 植物育成用LED照明に照らされる壁面緑化

3 在来種を含む約50種類もの植物が配置され阿蘇地方特有の自然のエッセンスを取り入れた緑化空間



1



2



3

1 子どもたちが楽しむ水遊び場をリニューアル 2 ウェアラブルカメラを活用した協力業者打合せ等のリモート化を実施 3 新技術活用・生産性等向上工事表彰を受賞

新しい形の公園工事を目指して 水遊び場のリニューアル工事

活動時期 2021年8月～2022年3月

活動場所 国営武蔵丘陵森林公園（埼玉県比企郡滑川町及び熊谷市）

「国営武蔵丘陵森林公園」は1974年に開園した全国初の国営公園。広大な敷地の中には子どもたちが楽しめる広場や遊具が設置されています。今回の工事では夏の人気施設である「水遊び場」のリニューアル工事を行いました。また昨今の建設業の働き方改革が求められる中、新しい現場管理技術を活用し、DX（デジタルトランスフォーメーション）推進に取り組みました。今後も様々な挑戦を通して生産性向上を模索していきます。

活動の目的

感染症の流行や働き方改革によって新しい働き方が模索されていく中、工事現場でも変革が必要となってきます。造園工事は屋外での作業が多いですが、休憩所の工夫や新規入場者の動画による教育などを導入し、生産性の向上や、より快適な労働空間を作っていくこともこれからの課題の1つと考えます。

取り組み・成果

現場管理において、ウェアラブルカメラを活用したリモートでの現場立会、事務所と現場を繋いだ打合せを実施。監督の移動時間の削減や、遠方にいる技術者との情報共有など、導入のメリットを感じられました。また今後の可能性として3Dスキャンを用いた測量にも挑戦しました。

今後の目標・課題

今後の技術者不足が見込まれる中、新たな技術の導入と働き方改革の推進は業界として大きな課題の1つとなります。公園づくりのノウハウを傳承しつつ、DXを進めることで、生産性の向上を目指し、皆が働きやすい環境を作っていくことが重要となります。引き続き造園業界として成長していくことが求められています。



1



2



3

1 立体的に仕立てたスイカは、実付きも良く、お客様の注目の的でした。2 体験の様子。子供も手をのびやすい高さで、間近で観察できます。3 植物はすべて「口にできる」ものを選定しています。カラーリーフやエディブルフラワーを活用することで、一年を通して花壇に彩りを添えています。

すべてのお客様に食農体験を バリアフリー花壇でポタジェガーデン

活動時期 2021年10月～現在継続中

活動場所 桂川ウェルネスパーク（山梨県大月市富浜町）

桂川ウェルネスパークは里山の農林業体験をテーマにした都市公園で、農園で土と触れあいながら農作物を育て、収穫・加工する食農プログラムを展開しています。ポタジェガーデンとは、野菜やハーブを組み合わせて栽培するフランス式の家庭菜園です。公園の入口に位置し、車いす利用者の目線に合わせたバリアフリー花壇にポタジェガーデンを創出し、身体障害者や高齢者など、農園へ足を運ぶことが困難な方も障壁なく作物に触れることができるようになりました。

活動の目的

最初の来園者の目に入る花壇を華やかに維持するだけでなく、公園の四季を感じていただける場を創出しました。例えば冬には「あったかお鍋のもりもり冬野菜」など、季節の料理を連想させるようにテーマを設定し、春菊や大根を取り入れました。普段口にしていない食材の生産から食卓に並ぶまでの過程に触れていただく狙いもあります。

取り組み・成果

花壇の形状や土の量に制限があるため、コンパニオンプランツを取り入れ、隣り合う作物が助け合いながら育つ工夫をしました。スイカを立体的に仕立てて空中に実らせ、省スペースで人目を引く花壇に仕上がりました。また、計画的な切戻し剪定をし、作物によって異なる「食べ頃」の状態を極力長い期間見せられるよう試行錯誤しました。

今後の目標・課題

ポタジェの独特で省スペース栽培方法は、家庭菜園に興味のある方には是非知っていただきたい手法です。収量アップのための仕立て方講座や作物相性クイズなど、ポタジェ初心者向けの講座を今後展開します。また、視覚障害者に作物の香りや感触を体感できるプログラムなど、より多くの方が里山の恵みを堪能できる場を提供していきます。

活動実施会社 株式会社アメニス山梨

